いずかし

「自主、自立、自信」子供のやればできるの体験を支える学校づくり

R7年12月８日
文責：校長

ペースランニング走

【気持ちよく走る楽しむ楽やろんぐに】

これまで多くの学校が行ってきた、順位をつけたマラソン大会やタイムの向上を目指すマラソン大会（いわゆる持久走大会）は、学校行事としての取り扱いを含め見直していきたいと考えています。

その理由は、マラソン大会が学校のリスクマネジメントの観点や、子どもの心身の安全・安心という観点からデメリットが大きすぎるためです。さらに言えば、この行事は教育活動の拠り所になる学習指導要領の体育科のねらいとも合致していないからです。

体育科では、「マラソン」ではなく「自分のペースをつかんで気持ちよく運動する力」です。「持久走」の位置づけも「陸上運動」ではなく、（小学校）高学年の場合は「体つくり運動」の中の「体の動きを高める運動」の一部であり、「動きを持続する能力を高めるための運動」の例示に過ぎません。それも高学年で「無理のない速さで５～６分程度の**持久走**をすること」といった内容に限定されており、低学年は「２～３分」、中学年は「３～４分」の**かけ足走**という設定になっています。

要するに、気持ちよく数分間走り続けられれば目標達成とされる内容です。「無理のない速さ」とは、走りながら風景を楽しんだり、体で風を感じたりするような速さであり、本来は楽しい運動です。生涯体育の観点から言えば、健康維持のために行うジョギングやウォーキングがこれに該当します。

しかし、これまでのいわゆる「持久走大会」では、そのような「無理のない速さ」とは程遠い状況が見受けられました。息を切らし、倒れそうになりながら苦しい表情で走る子どもたちの姿が見られていました。遊びや生活スタイルが変化した子供たちにとって、この時期にこうまでして走らなければならないことで、「走るのが嫌い」「体育が嫌い」になる子どもが多く出現するのです。これでは、子どもの心身の安全・安心を第一に考えた学校行事とは言えず、デメリットが多く、リスクも高すぎる行事になっていました。

今後は、これまでの着順重視のタイムレース形式の指導を見直し、ペースランニングに主眼を置いた学習を展開して参ります。これにより、これまで行ってきた「持久走大会」は行わず、授業参観として公開しないことにしました。

ただ、本校伝統の桑田杯、浅野旗のレースについては存続いたしますが、児童自身が自己記録を目指す内容と、ペースランニングを目指す内容のどちらかを決めて学習を進めていきます。

子供さんのペースランニングをご覧になりたい場合は、12月18日（木）に全学年で「ペースランニング走のまとめ」を行います。左上に各学年のスタート時刻（予定）をお知らせしますので、子供さんのランニングを見に来られたい場合はご来校ください。

◎期日　12月18日（木）
◎各学年のスタート時刻
※あくまでも予定時刻です
1年生…2分間ペースランニング
①9：00～　②9：15～
2年生…2分間ペースランニング
①9：05～　②9：20～
3年生　3分間ペースランニング
①11：45～　②12：00～
4年生　3分間ペースランニング
①11：50～　②12：05～
5年生…5分間ペースランニング
10：00～
★浅野旗（800mタイムレース）
10：25～
6年生…6分間ペースランニング
10：10～
★桑田杯（1500mタイムレース）
10：35～
浅野旗、桑田杯表彰式
10：45

情報安全出前講座

12月5日（金）に、八代教育事務所から瀧川尚樹様をお招きして「インターネットの世界から子供たちを守るために」と題して情報安全出前講座を開催いたしました。

講話のはじめに、子どもたち向けにクイズが出され、アプリやゲームがなぜ年齢制限がかかっているのかという疑問を出発点に、長時間使いすぎると脳に与える影響や学力に与える影響、そしてネット依存症の弊害等を話され、未然防止の方法も紹介されました。

また、事前に保護者の皆様から取ったアンケート結果をもとに、スマホ等を持たせている保護者の方の悩みを紹介され、悩みの解決に繋がるヒントを話されました。悩みで一番多かったのが「長時間の使用」でした。これは、一学期末に行ったスクリーンタイム調査の結果でも、子供たちがとても長い時間スマホをはじめ、ゲーム機等の情報通信機器を使っていたり、家庭内で決めたルールも約半数が守られていなかったりという実態が見えていました。

スマホは日常生活に欠かせない便利な道具です。しかし、子供たちがスマホ依存やネット依存症等に陥って抜け出せなくなる前に、私たちが子供たちに有益な使い方を教え、子供自身が情報通信機器の利用をコントロールできる力をつけさせることは、子供の明るい未来を保障する上で大切だと思います。これを機会に、ご家庭のルールをもう一度見直されるなど、話し合ってみてはいかがでしょうか。

スマホに依存せず何か夢中になれることを一緒に見つけることも大切と思います。

講話を真剣に聴く様子